

法科大学院 「統一適性試験」速報

当校講師による
解答・解説

今後の適性試験対策のご参考
にしてください！

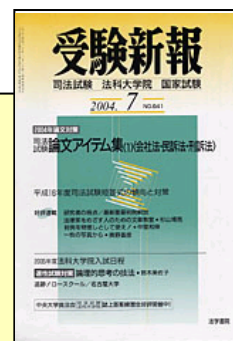
日弁連法務研究財団 2004年6月13日(日)実施試験

ここでの掲載は解答・解説(第4部は解答例)のみとなります。ご注意ください。
なお、これらの問題別の解説ページは、都合によりプリントアウトができません。

当校講師の解答・解説が市販書にて発刊！

河合塾ライセンススクール講師陣による2004年実施「適性試験」の解答・解説が
法学書院発行の月刊誌「受験新報 2004年9月号」(2004年8月1日発行)に登場！
大学入試センターの全問題と、日弁連法務研究財団の第1・2部の一部問題について、
問題付きで掲載されます。ご興味のある方は、ぜひお求めください！

右の写真は、同雑誌2004年7月号です。



第2部 ● ● 分析的判断力を測る問題

問題1

条件1と2より駐車場(あ)にはA B
またはA Cが駐車している。つまり駐
車場(あ)には必ずAが駐車している。
このことと条件4より駐車場(あ)にはI
が必ず駐車している。さらに条件3より
駐車場(う)にはGとHが駐車している。
BとCの組合せにより、次の4通りが考
えられる。

表1

	(あ)	(い)	(う)
白 _{A B C}	A B	C	
赤 _{D E F}			
黒 _{G H I}	I		G H

表2

	(あ)	(い)	(う)
白 _{A B C}	A B		C
赤 _{D E F}			
黒 _{G H I}	I		G H

表3

	(あ)	(い)	(う)
白 _{A B C}	A C	B	
赤 _{D E F}			
黒 _{G H I}	I		G H

表4

	(あ)	(い)	(う)
白 _{A B C}	A C		B
赤 _{D E F}			
黒 _{G H I}	I		G H

(1) 正解3

駐車場(あ)にAとIが, 駐車場(う)にGとHが駐車しているという条件を満たすのは3のみ。よって, 3が正解。

(2) 正解4

Cは(あ)(い)(う)のいずれか。Dは(い)か(う)。GとHは(う)のみ。よって, 4が正解。

(3) 正解5

Iは駐車場(あ), Gは駐車場(う)と確定しているので, 5が正解。1は表4, 2は表1・表2, 3は表3・表4, 4は表1から表4のすべて, で成り立つ可能性がある。

(4) 正解2

BとDが同じ駐車場に駐車できるのは表3・表4のみ。Dを書き込むと, 表4は確定するが(表6), 表3はまだEとFが決まらない(表5)。いずれにしろ, 可能性があるのは2(「BとHが同じ」)しかない(表6)。よって, 2が正解。

表5

	(あ)	(い)	(う)
白 ^A _B _C	A _C	B	
赤 ^D _E _F		D	
黒 ^G _H _I	I		G _H

表6

	(あ)	(い)	(う)
白 ^A _B _C	A _C		B
赤 ^D _E _F		E _F	D
黒 ^G _H _I	I		G _H

問題2

条件を勝敗表にまとめ、現時点での得点を計算しておく。

表7

	A	B	C	D	E	得点
A			3		1	4
B				1	3	4
C	X			1	X	1
D		1	1			2
E	1	X	3			4

(1) 正解4

Dは、あと2試合残した現在の得点が2なので、全試合終了時に7点になることはない。あと2試合で5点取ることが出来ないからである。よって、4が正解。

(2) 正解4

Aは、あと2試合残した現在の得点が4なので、+5点以外は合計の可能性はある(××で+0, × で+1, で+2, ×○で+3, ○ で+4, ○○で+6)。よって、4が正解。

(3) 正解2

AがBに勝ったことを勝敗表に書き込み、その時点での得点を計算しておく。

表8

	A	B	C	D	E	得点
A		3	3		1	7
B	X			1	3	4
C	X			1	X	1
D		1	1			2
E	1	X	3			4

Aは、あと1試合を残した時点での得点が7なので、最後の試合で勝てば10得点、引き分けても8得点となって、単独1位となる。そこで最後の試合で負けた場合を考える。

表9

	A	B	C	D	E	得点
A		3	3	X	1	7
B	X			1	3	4
C	X			1	X	1
D	3	1	1			5
E	1	X	3			4

この時点でのAの得点は7なので、これを超える得点になる可能性がある者を探していくとDしかおらず、Dは残り1試合を勝って8点にまですることができ。この場合はDが単独1位となって、Aは2位になる(BがCに勝っても7点なのでAの2位はかわらない)。

表10

	A	B	C	D	E	得点
A		3	3	X	1	7
B	X			1	3	4
C	X			1	X	1
D	3	1	1		3	8
E	1	X	3	X		4

したがってAは、1位か2位の可能性はあるが、3位以下にはなりえない。よって、2が正解。

(4) 正解5

AがBに勝ち、DがEと引き分けたことを勝敗表に書き込み、その時点での得点を計算しておく。

表11

	A	B	C	D	E	得点
A		3	3		1	7
B	X			1	3	4
C	X			1	X	1
D		1	1		1	3
E	1	X	3	1		5

7点よりも高い得点を取る者はおらずAは1位。Bは残る1試合でCに負けたとしてもCが4点となって単独最下位ではない。Cは残り1試合で勝ったとしても4点しか取れないので2位にはなれない。Dは残り1試合で勝ったとしても6点しか取れないので1位にはなれない。Eが4位になるのは次の表 12 の場合である。よって、5が正解。

表12

	A	B	C	D	E	得点	順位
A		○3	○3	✕	△1	7	1位
B	✕		○3	△1	○3	7	1位
C	✕	✕		△1	✕	1	5位
D	○3	△1	△1		△1	6	3位
E	△1	✕	○3	△1		5	4位

(5) 正解2

表7を見ながら考えると、Eが単独1位になるためには残る1試合で勝って7点を取り、他の人が7点を取ってはいけない。AとBは現在4点なので、AはBに勝ってはならず、BはAに勝ってはいけないことになり、この2人の対戦は引き分けにならなければならない。この時点で、2が正解。

表13

	A	B	C	D	E	得点
A		△1	○3		△1	
B	△1			△1	○3	
C	✕			△1	✕	
D		△1	△1		✕	
E	△1	✕	○3	○3		7

さらに、AはDに勝ってはならず(引き分けか負け)、BはCに勝ってはならない(引き分けか負け)。

問題3

(1) 正解1

2は条件4に, 3は条件2に, 4と5は条件1に反する。よって, 1が正解。

(2) 正解4

条件より次のようになる。

青 緑 緑 D E 緑 緑 青

DとEには条件3より緑は入らないから, 緑はBCFGの4軒ある。よって, 4が正解。

(3) 正解3

条件とA = Hより次のようになる。

茶 茶 C D E F 緑 茶

隣接する同色の2軒について場合分けをする。まず, EとFの場合(色は青)は, CとDに入る色がない。

茶 茶 C D 青 青 緑 茶

次に, FとG(緑)の場合は, 次のようになる。

茶 茶 C D E 緑 緑 茶

CとDに茶は入れず, DとEに緑が入れないので, Dが青と確定する。よって, 3が正解。

(4) 正解3

左右に関する条件がないので, 正しい配列の左右逆転が成り立つ。ということは, 1と4, 2と5は一蓮托生なので, 可能性がないのは3のみ。よって, 3が正しい。

念のために書いてみる。条件より「茶4 > 緑3 > 青1」か「茶5 > 緑2 > 青1」のいずれか。選択肢を参考にしながらいくつか作ってみると次のようになる。

緑 茶 茶 緑 青 茶 茶 緑

茶 茶 緑 青 茶 緑 緑 茶

茶 緑 緑 茶 青 緑 茶 茶

よって, 3が正解。

問題4

(1) 正解1

2はB, 3はA, 5はCが条件3に反する。また4はCが条件5に反する。よって, 1が正解。

(2) 正解1

条件4の後半(hならeかf)と条件5の後半(fならcとhはない)より「hならe」が確実にいえる。よって, 1が正解。

(3) 正解3

1は条件3(gなら a)に, 2は前問(2)の結果(hならe)に反する。条件6より残るC店が最低限取り扱う機種は, 3はadfg, 4はacfg, 5はbehfとなるが, 4と5は条件5の後半に反する。よって, 3が正解。

(4) 正解2

(1)(3)の結果より, 3機種・4機種が成り立つことは明らか。そこで, 5機種・6機種が成り立つか否かを検討する。2機種しかないデジカメ(gとh)から検討していく。gを取り扱うとすると, gdの場合はb不可, geの場合はa不可, gfの場合はc不可なので, 5機種以上は扱えない。hを取り扱う場合は, (2)の結果よりeが必須となるもa不可となり同様の結果となる。gとhを取り扱うとすると, eが必須a不可なのでghebcが考えられるがこれは条件3に反する。以上より, 5機種以上はあり得ず, 2が正解。

(5) 正解5

(3)の結果より, 次の2つの組合せが考えられる。

bceh bceh adfg ...

bceh adfg adfg ...

1は に, 2と3は に反する。残る4と5については, gとhに関する5から検討した方が早い。1店でしかhを取り扱わないなら残り2店でgを取り扱うことになる。条件3より, その2店では必ずaが取り扱われる。よって, 5が正解。

【問題4 別解】 論理式の扱いに慣れていれば, 次のような解法のほうがスッキリしていてわかりやすいだろう。

条件3より $d \rightarrow g \rightarrow a$ これは2式に分割可能で, $d \rightarrow a$ (), $g \rightarrow a$ ()

条件4より $g \rightarrow d \rightarrow e$ (), $h \rightarrow e \rightarrow f$ ()

条件5 $d \rightarrow \neg b$ (), $e \rightarrow \neg a$ (),
 $f \rightarrow \neg c \rightarrow \neg h$ これは2式に分割可能で, $f \rightarrow \neg c$ (), $f \rightarrow \neg h$ ()

条件4は分割できないため, ここから考える。

まず, $(g \rightarrow d \rightarrow e)$ でeを取り扱うと, と から $a \rightarrow \neg a$ となり, 矛盾。よって, $g \rightarrow d$ 。すると から, 取り扱わないものに $\neg$, 取り扱いが不明なものを () で囲んで表すと,

$a \rightarrow b(c)d \rightarrow e(f)g \rightarrow h$

ここから取り扱いの可能性は, $a(c)d(f)g$ ただし, から () は2者択一と表せる。

次に, $(h \rightarrow e \rightarrow f)$ でfを取り扱うと, から $h \rightarrow \neg h$ となり, 矛盾。よって, $h \rightarrow e$ 。すると, と の対偶から, $\neg a(b)(c) \rightarrow de \rightarrow f \rightarrow gh$

ここから取り扱いの可能性は, $(b)(c)eh$ となる

以上より, 各店は, $[a(c) / d(e)f / g()]$ は択一]か, $[(b)(c) / e / h]$ のいずれかのパターンを選ばざるを得なくなる(以下略)。

問題5

条件により、次の2通りが考えられる。□には B と EF が3つずつ入る。

	キャサリン		ポール	ジョージ (火)
朝	C D	□	□	□
昼	C D	□	□	□
夕		A C	A D	A

↑
(月)(木)

	キャサリン		ポール	ジョージ (火)
朝	□	C D	□	□
昼	□	C D	□	□
夕		A C	A D	A

↑
(月)(木)

(1) 正解4

夕方はAが3回とも入っているので、EFのペアは受講できない。よって、4が正解。

(2) 正解1

条件1・4より、火曜日にCは受講できない(2と4)。条件5より、火曜日にDは受講できない(5)。夕方休みのキャサリン担当日が月曜日だとすると、朝と昼がCDでないと週3回受講できなくなる(3)。よって、1が正解。

(3) 正解3

Cは、昼間はDと一緒に月曜日か木曜日に受講する。よって、3が正解。

(4) 正解2

冒頭の表に「ポール＝木曜日」を書き込むと、次の通りに曜日が確定する。可能性がないのは2(Bが月曜日の昼)のみ。よって、2が正解。

	キャサリン		ポール	ジョージ
	(月)	(金)	(木)	(火)
朝	C D	□	□	□
昼	C D	□	□	□
夕		A C	A D	A

	キャサリン		ポール	ジョージ
	(金)	(月)	(木)	(火)
朝	□	C D	□	□
昼	□	C D	□	□
夕		A C	A D	A

以上